

事業所名 グループホーム小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和7年12月19日(金)14時00分~14時40分		
参 加 者		議 題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	0名	3 入居者様状況報告
市職員	1名	4 身体拘束適正化検討委員会
地域包括支援センター職員	1名	5 質疑応答・感想
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会 議 錄		
1. 行事報告について 『2025年11月』 <ul style="list-style-type: none">15日に入居者様のお誕生日会を行いました。20日に手巻き寿司イベントを開催致しました。 『2025年12月』 <ul style="list-style-type: none">22日にクリスマス会を行う予定です。大晦日に年越しそばをご用意する予定です。		
2. 今後の行事予定 『2026年1月』 <ul style="list-style-type: none">元旦におせちをご用意し、お祝いをする予定です。神社に参拝する予定です。2名の入居者様のお誕生日会を開催する予定です。		
3. 入居者様状況報告 <ul style="list-style-type: none">入居者様 9名 (男性入居者 0名 女性入居者 9名)平均年齢 90歳 (最低年齢者 83歳) (最高年齢者 99歳)平均要介護度 3.33		
4. 身体拘束適正化検討委員会の議題 議題「エスケープのある方に対する身体拘束を行わない為の介護」 ■エスケープとは エスケープとは介護施設などで生活されている入居者が外へ出てしまうことを言いま		

す。

グループホーム小町は認知症対応型共同生活介護施設である為、入居者は全員認知症の中核症状・周辺症状をお持ちの方が入居されています。見当識障害をお持ちの方もいらっしゃいますし、帰宅願望をお持ちの方や不穏になられる方も入居されています。

認知症である高齢者が一人で外出して行方不明になることで二次的なリスクが高まるため、非常に危険で注意しなければなりません。

未然にエスケープの発生を防ぐ方法を考え、もし発生した場合には迅速かつ冷静に対応することが重要になります。

■エスケープによる二次的なリスク

- ・転倒のリスク・交通事故のリスク・夏場だと脱水症や熱中症のリスク・冬場だと低体温症などの重大な事故が挙げられます。

■エスケープに対して、身体拘束となってしまう場合の行為

- ・居室に鍵をしめて、出られなくしてしまう。
- ・ベッドからおりられない様にベッド柵で囲んだり紐で縛ったりする。
- ・向精神薬など、薬を過剰に投与して動けなくする。

などが考えられます。

■エスケープに対して身体拘束をしてしまった場合のデメリット

- ・居室の鍵を閉められたことに対して不穏になってしまい、別の場所から出ようとされて窓ガラスを割ってしまいケガをしてしまう。
- ・ベッド上で身動きができないことに対して苛立ちやパニックがおこり、無理やりベッドから出ようとしてケガをしてしまったり、転落してしまう。
- ・向精神薬の過剰な服用によって動きが鈍くなり、転倒や認知機能の低下・嚥下障害・薬による副作用のリスクが高まる。

などが考えられます。

■エスケープが起きる原因

原因はあらゆる状況や状態によって人それぞれの理由があります。

① 見当識障害・記憶障害

- ・今いる場所がどこなのかがわからなくなったり「そろそろ家に帰らなきゃ」と自宅を探しに出てしまうことがあります。
- ・「仕事場に行かなきゃ」「買い物に行かなきゃ」などの理由で外出することもあります。

② 孤独感・焦燥感・ストレス

- ・記憶がまだらになったり、不確実な記憶からくる不安などによって出てしまうことがあります。
- ・家族の顔が見当たらなくて家族を探しに外に出てしまうことがあります。
- ・夕方から夜にかけて以前の生活習慣(家に帰って夕ご飯の支度など)を思い出して行動することがあります。

③ 身体的要因

- ・「トイレに行きたい」「暑い」「寒い」などを言葉で伝えることができずに不穏にな

って歩き回ってしまうことがあります。

■対策ポイント

グループホーム小町で対策をしているポイントがあります。

- ① 職員間で話し合い、職員全員の共通意識として「怒らない・否定しない・冷たくない」ということを大切にして入居者とコミュニケーションをとっています。
- ② 本人の視点に立って理解しようとしています。(なぜ外に出たがっているのか)
- ③ 役割・生きがいをもって頂ける様に参加・活動の場を提供しています。
- ④ 実際にエスケープが起きました場合、素早く探し出せる様に「迷子札」を作成してあります。その情報を元に各施設に応援要請をして捜索できる様にしています。

■まとめ

グループホーム小町ではエスケープのある方に対して身体拘束はしない方針をとっています。事前にエスケープに対する対策として上記の対策ポイントを意識して取り組んでいます。これからも入居者一人一人の心の声を聴いて入居者の立場に立った介護を実践していきます。

5. 質疑応答・感想

・行事の際の食事は毎回手作りですか？(ふたば地域包括支援センター様)

→8~9割は手作りしています。利用者様が職員と一緒に作るということも目的として行っています。手作りのイベント食は、食が細い方も完食してくださることが多いです。(GH 小町)

・身体拘束適正化検討委員会の議題を聞いて、迷子札とはどのようなものか？具体的に知りたい。(ふたば地域包括支援センター様)

→A4 サイズに利用者様の顔写真と、特徴などを記載しています。作成したものは、あらかじめ会社内の各施設(グループホームと有料老人ホーム)に配布し、それぞれに保管しています。(GH 小町)

・玄関の施錠はしているか？(瀬戸市役所高齢者福祉課様)

→防犯上の理由で夜間は施錠していますが、日中は開いています。出て行ってしまわれる方もみえますが、玄関を出入りするとチャイムがなるようにしているため職員が気が付きやすく、対応できるようにしています。鍵をかけたり引き止めたりではなく、職員も一緒について行き、納得するまで歩いていただくようにしています。

(GH 小町)

・今現在エスケープのリスクがある利用者様はいるか？(ふたば地域包括支援センター様)

→現在3名様ほど帰宅願望や徘徊などが理由でエスケープのおそれがある利用者様がみえます。居室で休む方、トイレに行く方、ソファで休む方といろいろみえるので、必ず適宜9名いらっしゃるか確認をするようにしています。(GH 小町)

・入居直後が一番不穏や帰宅願望が強い方が多いと思うが、入居からどれくらいで落ち着かれることが多いか？（ふたば地域包括支援センター様）

→入居から1か月ほどで落ち着かれることが多いです。また、1か月経過するとその利用者様の行動パターンや対応方法などの情報が集まり、対策しやすいようになります。（GH 小町）

6. 次回会議開催予定日

2026年2月27日（金） 14:00～ 開催予定となります。